

たけのこだより

京都市立竹田小学校
校長 大西 一幸

令和元年度 前期学校教育アンケートの結果を振り返って

	質問項目	保護者 重要度	教職員 重要度	児童 実現度	保護者 実現度	教職員 実現度
①	じゅぎょうにまじめにとりくみ、はなしをしっかりきいたり、はっぴょうしたりしている	99%	100%	87%	75%	94%
②	ともだちときようりよくしてべんきょうしている	98%	100%	92%	83%	94%
③	いえでかなならずしゅくだいやじしゅがくしゅうをしている	99%	100%	89%	82%	94%
④	ほんをよくよんでいる	98%	100%	86%	55%	94%
⑤	まわりのひとにすんであいさつしている	100%	100%	82%	82%	95%
⑥	やくそくやきまりをまもっている	100%	100%	92%	88%	94%
⑦	はやね・はやおきをし、ごはんをしっかりたべている	100%	100%	86%	76%	100%
⑧	すすんでうんどうしている	97%	100%	91%	70%	89%
⑨	ともだちとなかよくあそんでいる	97%	100%	94%	93%	94%
⑩	いえのひととよくはなしている	100%	100%	94%	93%	94%
⑪	こまったくときはせんせいにそだんしている	99%	100%	77%	86%	100%

保護者の皆様にはご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃は本校教育活動にご理解・ご協力いただき誠にありがとうございます。夏休み前にご協力いただきました学校評価の結果をまとめましたので、お知らせします。お忙しい中、アンケートへのご協力ありがとうございました。

学校教育目標『夢に向かって輝く、竹田っ子～「夢に向かい、つながりの中で主体的に生きていこうとする子」をめざして～』を具現化するために、昨年度より学校や家庭で大切にしたいことを児童・保護者・教職員がそれぞれ自らをふりかえることができる項目・内容をたずねる形式で実施しています。

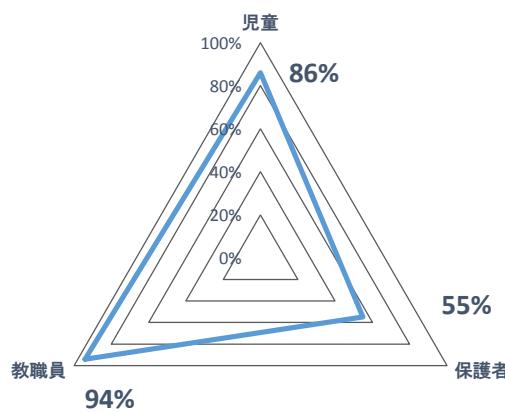
学校教育アンケート(児童・保護者・教職員)の結果は、重要度(「重要である」「やや重要である」を合わせた数値)、実現度(「よくできている」「大体できている」を合わせた数値)が全体に占める割合で表しています。

重要度の集計結果から

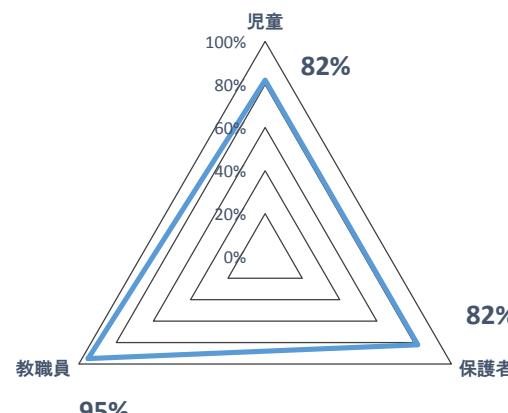
【保護者・教職員のみ】

保護者の方は、全項目で97%から100%の重要度でした。質問項目のどれをとっても高い水準で重要性を認識しており、学校教育の大切にしたい項目にご理解いただいている結果となりました。教職員は、全項目とも100%でした。

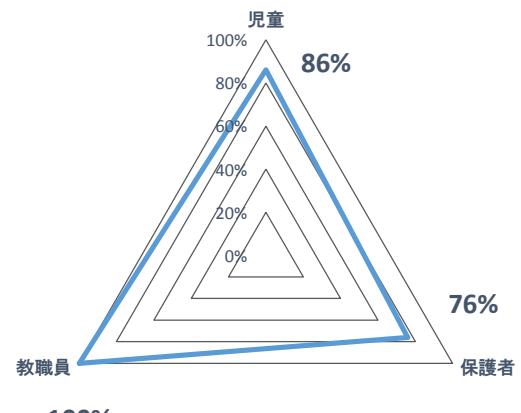
④ほんをよくよんでいる



⑤すすんであいさつしている



⑦はやね・はやおき・ごはん

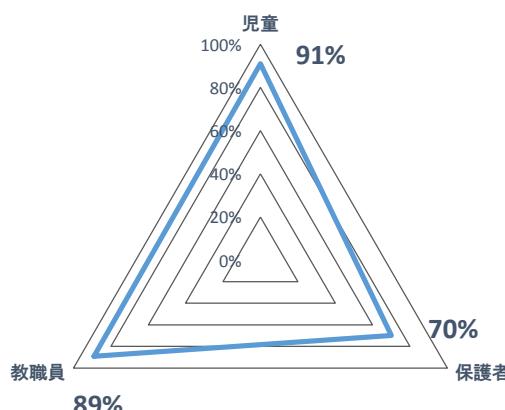


朝読書の時間はじめ、休み時間等で本に親しんでいる子が多いです。図書委員による取組や教職員による読み聞かせ、学校司書の働きかけ等で、本を手にとることや図書館の利用も増えてきています。昨年度、第2回図書館をリニューアルし、調べ学習などで利用しやすい環境となりました。保護者の方の実現度は55%と大きく下がっていますが、「本」は身近な存在であり、本と関わることが一つの読書活動であるという認識を広げていきたいと思います。

前回と比べて保護者の重要度がほぼ100%に達しましたが、実現度は前回よりも2%下がりました。学校内はもとより、上下校で見守つてくる地域の方や保護者の方にもあいさつから関係をつくっていくことが大切だと思います。あいさつは他者との関わりの第一歩です。声の大きさに表れないあいさつもあるかもしれません、子どもたち自身が自分からあいさつができるように、気持ちのいい声かけを進めたいと思います。

保護者・児童とも前回と比べて数%下がっている結果となりました。子どもたちの健やかな成長は、「早寝早起き朝ごはん」をはじめとした規則正しい生活習慣が大切です。近年、子どもたちの生活習慣の乱れが学習意欲、体力、気力の低下の要因の一つとして指摘されています。夢に向かうためには健康な体が基盤となります。子どもたちの生活習慣を定期的に振り返ることが大切です。

⑧すすんでうんどうしている



自由記述欄から

(いただきました全てのご意見は教職員全員で共有しております。)
「子育て・就寝時刻」「家庭学習の習慣化」「ホームページの更新」「自主学習の内容」「子どもたちの行動」「安全面」など、ご意見やご指摘を真摯に受け止め、今後の教育活動に活かしています。

学校運営協議会理事会より

これからも夢に向かって輝ける竹田小学校のために、いじめのない学校を目指してもらいたい。アンケートでは読書に課題があるが、読むだけでなく、見たり調べたり参考書としての活用方法を設けることで本に親しむ機会を増やしてほしい。また、早寝・早起き・朝ごはんの基本的な生活習慣を身に付けられるように努めてほしい。基本的な生活習慣は元気なあいさつや安全な集団登校とも関わっているので大切にしてほしい。という意見が寄せられていた。

学校教育アンケート全体を通して

保護者アンケートの記述では、低学年では親子で学校の話をする家庭が多いのですが、高学年になっていくほど、「習い事の数も増え、親子間の会話が減ってきてる」という感想をいただきました。また、「あいさつや上下校のあり方を意識してほしい」といった課題についての記述をいただきました。記述内容を教職員で共通理解し、課題解決を目指していきたいと思います。また、本校で実施している「ほっこり子育てひろば」などで、子どもたちの様子を交流し、子どもたちの理解とともに働きかけについても一緒に考えていくべきだと思います。

昨年度後期のアンケートを受けて、保護者アンケートの重要度の大きな変化が保護者・児童の実現度に結びついていると思われます。教職員については、児童の実現する姿のための働きかけとして「もっと有効な手立てがあったのではないか」といった振り返りをしています。今後も家庭と学校とが連携し、子どもたちを見守っていかなければと考えています。

運動に関しては、学校では「あさかつ」を実施し、ジョギングだけでなく、ダンスやボーリルを使った運動など、短時間ですが体を動かす機会を設けています。休み時間には元気に運動場で遊ぶ子どもの姿が見られます。一方で、学校外では運動をあまりしない子どもが多いことも聞きます。健康な体を作るには運動が不可欠です。昨今安全性の面で心配なこともありますが、運動をすることの大切さはこれからも伝えていきたいと思います。